

# 丁寧な説明でおもてなし

# 松江城ガイドデビュー

県立大短大生3人



観光客を案内する（左から）佐々木麻衣さん、菅家みくさん、柳楽紫さん

県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目)の女子学生3人が、松江城(同市殿町)のボランティアガイドとしてデビューした。天守の国宝指定啓申を受けた5月以降、座学や実地練習を重ねて歴史や心構えを習得。丁寧な説明で観光客をもてなした3人は「松江に伝わる、おもてなしの精神を今後に生かしたい」と観光振興への思いを新たにしている。

(石川麻衣)

NPO法人・松江ツーリズム研究会の山本素久理事長(78)から手ほどきを受けた。中でも佐々木さんは市立女子高校の2年生だった2012年、観光プランの完成度を競う「第4回観光甲子園」に出場し、最優秀の文部科学大臣賞を獲得したメンバーの一員。「大好きな松江を発信したい」と、ひととき強い思いで本番に備えた。

案内したのは千葉、岡山両県の7人。「天守完成年を特定する祈禱札の発見が国宝指定の決め手でした」などと案内し、ガイドを終えて一礼すると、大きな拍手を受けた。案内を受けた千葉県市川市の主婦船崎寿美子さん(74)は

## 春から 観光客「百点満点」 研修重ね

ガイドを務めたのは、総合文化学科観光文化ゼミに所属する、いずれも2年の佐々木麻衣さん(20)、柳楽紫さん(20)、菅家みくさん(19)。学たいという気持ちが一層強くなる視点で城の魅力を発信し、自分ようと卒業研修の一環で取り組み、ガイド事業を展開する

松江ゆかりの文豪・小泉八雲（1859〜1904年）が松江滞在中、「目のお薬師さま」として知られる「お薬師」（出雲市小境町）に参拝したエピソードにちなみ、門前町の商店でつくる「お薬師餅光」の関わりを振り返り、地域活性化につなげる。

協会が八雲の好物などを集めた特別メニューを考案

（石川麻衣）

## 一 煙薬師

## 松江滞在中に参拝

# ゆかりの地発信へ

# 面影の味 八雲定食

八雲は、18歳のときに事故で右目を失明した。右目の視力も弱く、まじ時は0・5以下だったとされている。英国の日本研究家友人のバジル・ホール・チェンバレン氏に宛てた手紙の中で、来松した直後の1890年11月に参拝したことを報告し「眼病に悩む人たちはみな、はるばるこの寺院に詣でて祈願をします」と記した。

参拝は地元でも知られておらず、同協会が没後111年を機に「お薬師が八雲ゆかりの地であることを広めたい」と参道3店の飲食3店に呼び掛けて企画した。

参道3店 11日から限定提供



門前町の店が提供する特別メニュー



試食する（左から）小泉祥子さん、小泉凡さん、内田雄平君。出雲市小境町、もんぜん。

各店が1種類ずつ考案。「もんぜん」は八雲の好物だった納豆、卵かけご飯、ゆずシソの宮福（1日1食、税込お米11円）を併せ、「ぼんびー」は獅子井とホットコーヒーのセット（同9食、同800円）を用いる。「なかつま」はあえツマイモや大豆など旬の食材を使った精進料理（同9食、同11円）を考案する。

①②のメニューで共通する「一冊」は八雲の好物。英語教師として赴任した際に参拝した福田旅館（松江市）主人の口述によると、八雲は毎朝必ず納豆を口にしたという。参拝後にも生納豆を食べ、尿色の代わりにした逸話も残っている。

根拠を前に、八雲のひ孫の小泉凡さん（54）と孫子さんの55天女、八雲会の内田雄平君（53）を招いた試食会を開催。凡さんほどのメニューも絶品だ。文化遺産として八雲を活用してほしい」とお薦めを与えた。

③は「八雲とお薬師の縁を知ってもらえる機会にして、好評が得られれば常時提供できるようにしたい」と話した。

14、15の両日は、参道をあうまぐさで飾る「園遊イベント」（11時〜17時）を開く。問い合わせは同観光協会、電話08533（67）00000。

平成 27 年 11 月 8 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

## 紙上ブックトーク

皆さん、なぜ人は目が二つあるのか、知っていますか？ 知っているつもりだけれど、あらためて聞かれると答えられない。そんな疑問に答えてくれる本が『なぜ？ どうして？ 身近な疑問 4年生』（三田大樹監修、学研教育出版）です。

この本では、生活の中で感じる疑問について分かりやすく説明されています。どれも身近な内容ばかりですが、いろいろな発見がありますよ。先ほどの目が二つある理由も「一人の目や耳は、なぜ二つつつあるの？」というページに書いてあります。気になる人はぜひ読んでみてくださいね。

人以外にも多くの動物が二つの目を持つていますが、中には四つ目を持つものもあるようです。それは「カエル」の目だま（目高）

『カエルの目だま』ほか

「カエルの目だま」は、動物たちの目や耳の不思議な構造や、なぜ動物たちは二つの目を持つていて、なぜ人間は二つの目を持つていないのか、などについて詳しく説明されています。動物たちの目や耳の構造や、なぜ動物たちは二つの目を持つていて、なぜ人間は二つの目を持つていないのか、などについて詳しく説明されています。

## 書いって適した数があるよ

目が四つもある動物がいます。3匹の会話の中で、虫たちの持つ「複眼」の秘密と、ミズスマシが四つも複眼を持つ理由が、優しい言葉で語られています。「みんなそれぞれじぶんには、ちゃんとうる目があるんだよ」と、池のみんながカエルに言ったように、どの動物も自分の暮らしに適した良い目を持っているのです。

虫たちや他の動物たちの目のことを、もっと詳しく知りたい人にオススメなのが「仕掛絵本図鑑 動物の目」です。

見ている世界（ギョーム・デュボア著、渡辺滸人訳、創元社）です。この本では、動物たちの見ている世界がどのようなものか、イラストと文章で説明されています。

色は区別できるのか、見えている範囲、近くのものや遠くのものなど、動物たちの目の秘密をぜひのぞいてみてください。自分の周りの世界が、他の動物にはどのように見えているか、想像しながら読んでみるのも楽しいかもしれませんよ。本を読んで目のいろいろな秘密を知ったら、周りの人に教えてあげるのも良いですね。

（内田 翔子・島根県立大学 短期大学部松江キャンパス おはなしレストランライブラリー司書）

平成 27 年 11 月 11 日 付 け ・ 週 刊 さ ん い ん 学 聞 54 号

小泉八雲 育んだ国

# アイルランド

## 訪問記

＜川島典子＞

アイルランドでは、小泉八と東洋の橋渡しをしてくれた雲の存在は決して有名ではないという。

旅の2日目、10月7日夜、日本大使公邸で開催されたレセプションで、源美千尋駐アイルランド大使(85)は、「残念ながら八雲はアイルランドでは、まだあまり知られていません」とあいさつ。改めて、顕彰事業を行う必要性を感じた。

日本を世界に紹介し、西洋アイルランドでは、小泉八と東洋の橋渡しをしてくれた雲の存在は決して有名ではないという。

### ～第2話～ ダブリン初の顕彰事業

## 功績紹介の必要性再認識

6日、成田を飛び立ったオーストラリア・マイク・オブ・ラファディオ・ハーン ツアーの一行は、一路アイルランド南東部の首都ダブリンへ。ダブリンでの宿は、司馬遼太郎の母校でもある。

午後、スタッフ・関係者のみ17人がマイケル・D・ヒギンス大統領に謁見。夕刻から、リトル・ミュージアムで開催された小泉八雲の功績を

が「街道をゆく 愛蘭十紀行」を書いたときに泊まったザ・グレシャム・ホテルだった。7日午前は、アイルランド最古の大学トリニティカレッジを見学。日本の組織に似た模倣などが描かれた福音書「ゲルズの書」も見た。同カレッジは、ノーベル文学賞受賞作家サミュエル・ベケットの母校でもある。

会場では、王立音楽院で学んだ村上淳志さんによるアイリッシュハーブの演奏も。普通のハーブよりも小型で、いわゆる薬草のようなアイリッシュハーブは、アイルランドの国章にもなっている。



小泉八雲の功績を紹介する企画展会場に飾られた八雲の肖像写真(ダブリン・リトル・ミュージアムで筆者撮影)



講演会が開かれた会場でアイリッシュハーブを演奏する村上淳志さん(筆者撮影)

アイルランドは、他にも、ウィリアム・バトラー・イェイツやバーナード・ショウ、シェイマス・ヒーニーという4人のノーベル賞作家を輩出している。

その後、ギネスビールの工場(ギネス・ストアハウス)へ。ダブリン市内が一望できる展望パドで、できたてのギネスビールを飲んだ。おいしすぎる! クリーミーな黒い泡が喉を通った瞬間、日本の

事業は、八雲のひ孫の小泉凡

（松江総合医療専門学校非常勤講師）  
11月14日付掲載

# 県立大松江 本蚤の市

蔵書外れた3300冊100円で 28、29日

島根県立大松江キャンパス・マルシェが28、29の図書館の蔵書から外れた両日、松江市浜乃木7丁目約3300冊の書籍を販売の同キャンパスで開かれる「本の蚤の市」リーブる。大学の資源を地域で活用

用してもらおうと同大が初めて企画した。

価格はすべて100円。歴史や手芸、料理のほか、文学、パソコン入門などの多様なジャンルの書籍や、同キャンパスで学ばれている保育や健康栄養系の本などをそろえる。出品予定の書籍は、同キャンパスのホームページであらかじめ確認できる。

両日とも午前10時から。28日は午後5時、29日は午後4時まで。本を持ち帰る袋は持参する。問い合わせは同キャンパス図書館、電話0852(20)0203。

平成 27 年 11 月 14 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

## 研究室への扉

山陰の大学は今

◇6◇

教官紹介



岩田英作 いわた・えいさく 1968年、雲南市生まれ。広島大学大学院文学研究科修士、91年に島根女子短期大学文学科へ講師として赴任。2011年から現職。

島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の図書館「おはなしレストライブラリー」で、同キャンパス見学に訪れた高校生に、読み聞かせが行われていた。絵本を手

に、感情豊かに作品世界を表現するのは学生たち。指導する総合文化学科の岩田英作教授（左）児童文学は「絵本の楽しさを学生と多くの子どもたちに知ってもらいたい」と目を細めた。

### 島根県立大短期大学部・児童文学

## 絵本の楽しさを伝える

生と圖書による読み聞かせ会を開き、絵本や児童書の楽しさを伝えている。

岩田教授はもとも、大江健三郎らの作品を中心に日本の近代文学を研究していた。わが子が生まれ、初めて絵本を読み

聞かせた際に、絵本の面白さを親子間のコミュニケーションツールとして絵本の読み聞かせに取り組む。2011年に開館した同ライブラリーを拠点に毎週日曜日、学

生と圖書による読み聞かせ会を開き、絵本や児童書の楽しさを伝えている。

岩田教授はもとも、大江健三郎らの作品を中心に日本の近代文学を研究していた。わが子が生まれ、初めて絵本を読み

聞かせた際に、絵本の面白さを親子間のコミュニケーションツールとして絵本の読み聞かせに取り組む。2011年に開館した同ライブラリーを拠点に毎週日曜日、学

高校生に絵本の読み聞かせをする学生—松江市浜乃木7丁目、島根県立大短期大学部

平成 27 年 11 月 15 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

“畑のお肉は何でしょう？”

# 食育クイズすごろく



作成した食育ボードゲームについて、改善点を話し合う学生

県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が「食育ボードゲーム」を作成した。すごろく形式で駒を進めながらクイズに答えて得点を競う内容で、楽しく食育について関心を深めてもらおうという願いを込めた。22日に松江市内であるイベント「しまね食育まつり」でお披露目し、広く意見を募って改良し、将来的には近隣の小学校や同大での活用を図っていく考え。（岩井彩佳）

## 県立大短大生作成 イベントお披露目

ゲームは、学生が考案した企画を同大が支援する「キラキラドリームプロジェクト」に昨年度採用されたことから、健康栄養学科2年の日高優香さん（19）ら9人が、3月に作った。ミニトマトをモチーフにしたキャラクター「トマト男」求め、くんの人生を5マスで表現。さいころで進めるマスの中に「畑のお肉は何？」など、県教育委員会が勧める食育の教材を参考にして作ったクイズがちりほめられ、答えながら進んでいく。前10時半から松江市学園南マスの中に書かれた指示で穴道湖のシシミヤトマト

### 学校、家庭で活用を

に似せたおはじきを取り合いながら総合点を競い、食の知識習得を狙っている。ゲームを県内の小学校で試してもらったところ、「休み時間で終わるようにもっと短いものを」との声があり、家庭用と小学校用に分け、新たに作り直すことにした。県の名産を答えるクイズを増やすことなどを考えており、お披露目で多くの人に使い心地を含め、意見を

松江

平成 27 年 11 月 20 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報



瑞風を活用した地域活性化プランを発表する学生たち＝松江市朝日町、松江テルサ

## 列車「瑞風」活用策を提案

松江 県立大4大生 アイデア競う

2017年春から山陰半半年かけて練ったアイデアを競う「JR西日本 瑞風」を提案した。このうち、審査でグランプリに輝いた鳥取瑞風大3年、松江市内であり、西県の4大学の学生らが沿線でのこみ拾い活動や、住民参加型のPRポスター制作などを提案した。

JR西日本が、学生の発想を今後の取り組みの参考にしようと企画。鳥取瑞風大から6チーム、松江市から6チーム、総勢約50人が参加し、大経済政策ゼミは、石州和

紙製の和ろうそくを穴道湖畔などに置き、車窓の景色を演出する案を示した。グランプリのアイデアを発表した鳥取瑞風大3年、松江市内であり、西県の4大学の学生らが沿線でのこみ拾い活動や、住民参加型のPRポスター制作などを提案した。このほか、同大の新井・食持ゼミは瑞風への期待や街の魅力を住民に書いてももらって撮影し、ポスター化するアイデアを考案。鳥根

平成 27 年 11 月 24 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

県立大  
図書館から除籍の4500冊  
貴重な本買い求め次々



本を手にとって品定めする来場者

松江

県立大短期大学部松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）の図書館から除籍した本を販売するイベントが28日、同キャンパス体育館研修室で始まった。歴史や評論など多彩なジャンルの約4500冊が並び、来場者がお気に入りの一冊を買い求めた。29日まで。

書籍の有効活用の一環で同大が初めて企画した。1927〜2009年に出版された現代文学や大学の講義で使う専門書などをいずれも1冊100円で販売。県がまとめた荒神谷遺跡（出雲市妻川町）や石見銀山（大田市）の調査書とい

北井由香主任司書(39)は「普段は読む機会がない書籍を取りそろえた。さまざまな分野の本に親しんでほしい」と話した。同大は今後、隔年での開催を検討するという。

(佐々木一全)